

第149回簿記検定試験
3級 出題の意図

[第1問]

(出題の意図)

1. 約束手形による資金貸付けに関する問題です。借用証書による貸付けと、約束手形による貸付けの相違を理解しているかを問いました。
2. 売上取引に関する問題です。本店が得意先負担の諸掛りを立て替えて支払った場合の処理を理解しているかを問いました。
3. 債権の貸倒れに関する問題です。前期に発生した売掛金が貸し倒れた場合の処理を理解しているかを問いました。
4. 費用の支払いに関する問題です。振込手数料の処理を理解しているかを問いました。
5. 有形固定資産の売却に関する問題です。帳簿価額(取得原価－減価償却累計額)と売却価額の差額から固定資産売却損益を求めることができるかを問いました。

[第2問]

(出題の意図)

経過勘定の決算整理仕訳に加え、費用に関する勘定科目の決算振替仕訳や経過勘定の期首の再振替仕訳も含めて理解しているかを問う出題です。初学者には難しい論点であるものの、簿記における損益計算の考え方を理解するためには欠かせない論点です。

本問で注意が必要なのは、前期と当期で支払額が異なるため、当期首の再振替仕訳と当期末の決算整理仕訳(翌期首の再振替仕訳)の金額が異なる点です。あらかじめ記載されている保険料勘定の当期の支払額¥26,400 および「() 保険料」勘定の合計¥29,400 がヒントとなります。

[第3問]

(出題の意図)

3月末の合計試算表に4月の取引を合算して、4月末の合計残高試算表を作成する問題です。取引量は少し多いですが、各取引は基本的なものです。

取引を仕訳し、集計することにより、各勘定の借方合計と貸方合計を求め、残高欄にその残高を記入するといった一連の流れが理解できているかを問いました。

[第4問]

(出題の意図)

簿記に関する基本的な知識を問う空欄補充、用語選択の問題です。仕訳や帳簿記入も大切ですが、その基礎にある理論の知識も必要になります。

語群には多くの用語がありますが、1～5それぞれの文章に関連する用語はそれぞれに選ばれます。たとえば4の伝票に関する記述では、伝票の名称が適切な語句として選ばれるはずです。したがって、伝票に関連すると考えられる用語を限定してその中から最も適切な語句を選ぶようにしましょう。

[第5問]

(出題の意図)

残高試算表から決算整理を行い、最終的に貸借対照表および損益計算書を作成する問題です。決算整理事項等の多くは過去何度も出題されている基本的事項です。

決算整理事項等では、まず、内金の処理に注意しなければなりません。誤った処理としてどのような処理がなされ、本来なされるべき処理はどのような処理か、これを修正するためにはどのような処理が必要か、を段階的に整理して解答できるようにしましょう。

次に仮払金の処理が重要です。この処理を適切に行わなければ、備品減価償却の月割計算を誤ってしまいます。有形固定資産の取得、売掛金等の回収など、他の決算整理事項と関連すると思われる項目には特に気をつけましょう。